

はじめに

平成20年3月に告示された新しい学習指導要領が、小学校では昨年度から、中学校では今年度から全面実施となっています。

新しい学習指導要領では、改正教育基本法等で示された教育の基本理念を踏まえ、現在の子どものための課題から、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体の育成が重要であるとしています。また、子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語活動の充実を各教科等を貫く重要な改善の視点として示しています。

本県では、各学校が児童生徒一人一人の学習状況を把握し、課題に基づいて指導改善を推進することを大きな目的として、平成14年度から本調査を実施しており、今年度で11年目を迎えました。

各学校においては、調査結果を基に、「『ひろしま』学びのサイクル」の定着を一層進め、指導改善に努めていただいているところです。

今年度の調査結果では、全ての教科において、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられますが、思考力・表現力に関する内容については、少しずつ改善されてはいるものの依然通過率が低い設問もあり、継続的な課題となっています。

本報告書では、昨年度の分析と同様に、通過率30%未満の児童生徒の状況や、3年間（平成22年度・23年度・24年度）各教科の通過率が県平均以上の学校の取組を分析しています。

また、平成23年度「基礎・基本」定着状況調査と平成24年度全国学力・学習状況調査を関連付けた分析を行い、学習内容の定着状況が改善された学校の指導方法や指導内容を示しています。

第2章では、今年度の調査で成果の上がった学校の事例とともに、今年度から実施している学力向上総合対策事業指定地域や指定校の取組についても紹介しています。

各学校においては、調査の趣旨を踏まえ、学校全体として組織的な取組を進めていくために、この報告書を参考にして、児童生徒一人一人の分析・考察を深めていただきたいと思います。

最後に、この調査の実施、分析、報告書作成に御尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

平成24年12月